134 幕張テクノガーデンのガーデン、アトリウムの照明計画

河角 真人 田中 照雄 小坂 睦夫
(清水建設(株) 設計本部)

遠藤 充彦
(L D ヤマギワ 研究所)

1. はじめに

幕張テクノガーデンは、幕張新都心に平成元年4月にオープンした延216,000㎡の大型複合インテリジェントビルである。建物の名にもあるように「ガーデンを中心とした業務、研究環境・技術と人間の調和した最先端環境の実現」を基本コンセプトとしており、10,000㎡のガーデンプラザと、インナーガーデンとして計画されたアトリウムにより、ここに働く人々に潤いと安らぎを与えている。ここではその照明計画を紹介する。

2. ガーデンプラザの照明

ここでは木と植栽に暖かみを持たせるため、白熱灯で照らしあげる方式を中心としている。四季毎に表情を変える落葉樹42本をグリッド状に配置し、異なる光源を四季毎に変化させ、木々の美しさを引き出している。また中央の池は噴水と水中照明により水と光の変化を演出し、中央に浮かぶステージにはフランスの彫刻家マルタ・パンによる高さ12mのモニュメントを設置し、下よりの投光照明によりこれを浮かび上がらせている。ガーデン内プロムナードにそって設置されたボラードに足元灯を組み込み、この通路の雰囲気作りを行っている。ガーデンを取り囲むショッピングモールは、暖色系光源とシャープな光源を時間で変化させ、モールの表情に変化を持たせている。

3. アトリウムの照明

建物の中央部には、フランスのヴィルモット事務所の基本設計による「21世紀のフランスの庭園」を表現した1,400㎡のアトリウムがある。白を基調とした空間に円錐形をした木と植栽が配置されている。空間全体の照明としては、トラス屋根からの床面を照らす照明と逆に下から屋根を照らしその反射によって得られる光と植栽灯にて明るさを得ている。またテーマ表現の一つとして壁面が光る面発光を用いている。アトリウムをさらに奥に進むとピラミッド型立体トラスの24mの吹抜け空間があり、大きな円錐形をした4本の木が空間にそびえている。メタルハライドランプと高圧ナトリウムランプを合わせた混光スポットライトと植栽灯による照明とし、アトリウムから続く空間として統一されたイメージを表現している。

4. おわりに

竣工以来数カ月を経ているが、ここで働く多くの人々にくつろぎの空間として有効に利用されている。本稿が高度情報化時代のオフィスビルのアメニティ空間の照明計画の一例としてご参考となれば幸いである。

Garden and atrium lighting of Makuhashi technogarden,
Masato Kawasumi, Teruo Tanaka, Mutsuo Kosaka, Mitsuhiko Endou

全体平面図 100m

ガーデンプラザ夜景

アトリウム夜景